

# ネットワーク堀

第51号

平成31年1月10日

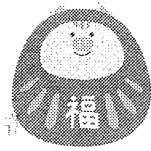
発行

大正地区福祉  
推進協議会

## 大正地域福祉の今後の展望

大正地区福祉推進協議会会長

高橋



大正地区住民の皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、かねてから思うのですが、福祉推進協議会を含め大堀区の最大の使命は、「住民の皆様の安全と福祉を自身体と連携してどう守るか」ということです。

各自自治会には民生児童委員がおられ、昼夜を問わずお世話になっております。委員の皆様のご苦労は大変なものです。しかし、その働いていただく環境は必ずしも充分とは言えません。待遇もわずかでずし、集っていただく場所もありません。願わくは、高齢者・障がい者の皆様といっしょに集える場所があつて、そこでいろいろと相談したり、悩みを聞いたりできれば、委員の方も対象者の方もお互いにずいぶんと助かると思うのです。

先日テレビで、日本へ亡命しているシリア人の男性がこんなことを言っていました。

『シリアはご存じの通り、戦闘や空爆でひどい状態になっています。それに比べて日本は平和で安全でうらやましいです。でも、シリアの人たちは、明日の命もわからないけど孤独ではありません。家族や住民がお互いに助け合つて、より絆を強めています。日本の皆さんは安全ですが孤独な人が多いように感じます。それは、互いのコミュニケーションが少ないからではないでしょうか』と。

わたしたちは、ともすれば何でもお金で解決できるように思いがちですが、お金よりも大事なことがあるのを忘れてはいないでしょうか？ お金は確かに必要です。でも何千万、何億も必要ではありません。日産のカルロス・ゴーンがいい例です。年に二十億もの報酬を取つてもまだ足りない生き方は羨ましくもなんとありません。ぜいたくしなれば生きてゆけるだけのお金で十分です。

これからは、お金よりもコミュニケーションを大切に福祉を考えたいものです。



## 地区公民館の役割・地域づくり

大正地区公民館 館長 菅 沼

大正地区の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素は大正地区公民館の事業に多大なるご理解・ご協力・ご支援をいただき、厚く感謝申し上げます。

今年度で館長として二年目を迎えました。今後とも何卒宜しくお願いいたします。

さて、大正地区公民館は、永年継承されているテーマの「集い・学び・ふれあい」の場所づくり、大正にお住まいの皆様とのコミュニティーを大切に、取り組んでいきたいと考えております。

公民館活動も後半を迎える中、『公民館だより』にも書

かせていただいておりますが、これまでの反省や課題を活かして地域や学校とも連携を密に取りながら、本年度の事業を取り組んでおります。

ご存じの方も多くおられると思いますが、平成二十九年の七月に庵我・大正の両地区合同のコミュニティの場『桃映地域公民館』が設立され、両地区が共に協力し幅広い層に向けての地域公民館事業を運営しています。合同で事業の運営・実施を行う中、これまで大正地区公民館で学んだ知識やノウハウが役立つことも多く、改めて地区公民館の大切さや今後の在り方を感じる次第です。

地域社会においての公民館の役割として、「誰もが気軽に寄ってみたいくなる魅力ある事業の発信」「参加したことによるふれあいとその後の人間交流」「地域づくりに貢献できる人材の育成」等が世代間の行き来が乏しい現在、公民館に求められているニーズだと考えます。まずは、身近なところから考え行動することを原点に、たとえわずかな歩幅であれ一歩ずつ前へ進みたいと思います。

大正地区にお住まいの皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしますとともに、これからも大正地区公民館にご支援いただけますよう、何卒宜しくお願いいたします。

## 消防団活動及び分団の再編成について

福知山市消防団大正分団 分団長 四方 方

日頃は、大正分団の活動に格別のご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、昨年は操法大会が開催される年ということで、四月から約三ヶ月間に渡って操法訓練を実施しました。その結果、おかげさまで準優勝を果たすことができ、団員の消防技術の更なる向上につながるとともに団員相互の結束を図ることができました。

昨年は集中豪雨や台風の接近が例年にも増して多くあった年でした。中でも七月の集中豪雨では福知山市全域で家屋倒壊など大きな被害をもたらしました。大正分団も管内の警戒活動や避難広報、増水個所への土嚢積みなどを行い、皆さんの安全を守る活動を行いました。また、自治会と協力した「防災訓練」や、大正小学校PTA主催の「救命救急講習」などで講師として参加し、防火活動や人命救助に関わる活動も行いました。イザという時のために皆さまも積極的に参加していただきたいと思っております。

さらには、毎月一日の防火広報、春と秋の防火週間での防火広報、年末警戒といった活動を行っており、今後も自治会やPTAの皆さんと協力しながら活動して行きたいと思っております。

次に、分団の再編成についてですが、大正分団は福知山市が進める公共施設マネジメント基本計画に沿って、数年前から分団の再編成や詰所の統合などについて協議を進めてまいりました。その結果、現在の3部体制から2部体制に再編成することとし、水内・野家・東堀にある3ヶ所の詰所も東小谷ヶ丘1ヶ所に集約して、新たな大正分団を平成三十一年三月にスタートする予定としております。

集約することのメリットとして、部単位の団員数が増えることにより、団員の召集がしやすくなり、火災や災害時の初動体制の充実が図れることとなります。今後とも皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

冬場は気温も下がり火を使う機会が多くなりますので、くれぐれも火の取り扱いには十分ご注意ください、火災の無いまちづくりをお願いいたします。



## 「未来へ繋ごう ふるさとの絆」

桃映中学校 校長 岸 本

平素は桃映中学校に多大なご支援をいただき、誠にありがとうございました。誠にありがとうございます。本年度、四月より校長として赴任してまいりました岸本と申します。今後とも宜しくお願いいたします。

本校は、昨年度までの三年間、桃映ブロックの保育園・小学校とともに、地域のみなさんのご協力を得ながら文部科学省指定「夢・絆（桃映中学校区人権教育総合推進地域）事業」に取り組んできました。

この事業の結果、地域の人と協働して行うボランティアをはじめ、挨拶ロード、吹奏楽部の演奏など地域へ発信する活動等、たくさんのお取組を行うことができ、地域社会と学校、地域住民のみなさんと生徒・教職員の距離が大変近くなったと感じています。

日々の温かい声掛けや見守り、行事等への来校・参加、校門横に設置したアルミ缶回収ボックスへの投函等、大変うれしく感じています。これも地域社会のみなさんが学校の活動・取組を応援し、最大限受け入れていただいた大きく広い心の賜と感謝しております。

昨年度で夢・絆事業は終わりましたが、この活動を通して生まれた絆は、若干形を変えながらではありますが、今後も続いていくと期待しています。

さて、本年度本校は、創立七十周年を迎えた記念の年であります。その中で桃映中学校同窓会とPTAが「未来へ繋ごう ふるさとの絆」という記念テーマを創られました。この言葉に込められた想いは『未来へ繋ごう「ふれあい（ふ）」と「スマイル（る）」で「ささえあう（さ）」「ともだち（と）」の絆』です。「夢・絆事業」の成果を基盤にして、今後は地域社会（地域のみなさま）と学校（生徒・教職員）が共に協働し、笑顔で支え合いながら、ふるさとの未来を築いて行こうという想いが込められています。

これからも、地域の活動に積極的に参加し、学校の様々な取組を発信し、地域のみなさんとともに歩んでいきたいと願っております。大堀区のみなさまには、これからも何卒宜しくお願いいたします。

## 「あいさつ」でつながる学校・地域

大正小学校 校長 渡 邊

大正地区の皆様には、日頃より本校教育に多大なご理解・ご支援をいただき、感謝申し上げます。

本年度、四月より校長としてお世話になっております渡邊と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。

今回の勤務で、大正校勤務が二回目となります。四月当初は、二十数年前と比べて児童の様子はどのように変わっているかなど興味津々でした。始業式の翌日、児童の登校を児童玄関で待っていると、ほとんどの児童が大きな声であいさつをしてくれ、何を覚えています。児童とあいさつを交わしていると、私自身温かさを感じ、何よりも児童との距離がずいぶん近づいた感じがしました。

現代社会は情報機器も発達し、メールやライン等を使うことが多くなり、昔と比べて思いを伝える方法もずいぶん変わってきました。伝えたいことを速く伝えることができるようになりとても便利になりました。その反面、このような伝え方では、自分の思いが相手に十分に伝わらず、トラブルになることも多くあります。

大正小学校では、これまでから進んであいさつをする『あいさつの先取り』の取組を行っております。また、委員会の取組として、児童の登校に合わせ委員会が友だちにあいさつをする取組も行っています。その様子を見てみると、あいさつを交わす中で、児童の声が自然と大きくなり、笑顔でのあいさつとなっています。あいさつを交わす

ことが、友だちとの関係を築こうとする第一歩となり、友だちと話すことや思いを伝えようとする意欲につながり、仲良く学校生活を送るための役割を果たしていると思います。

これからも『あいさつの先取り』の取組を進め、あいさつを通して、友だちや家族、地域の人のつながりを大切にしていきたいと考えています。

地域の皆様には、引き続きお世話になります。よろしくお願いします。

## みんな一緒に

大正小学校PTA会長 深田

本年度大正小学校PTA会長を務めさせていただいております内田町の深田です。地域のみなさまには日頃から子どもたちが安全で安心な学校生活が送れるようご協力をいただいております。誠にありがとうございます。

昨年は例年になく異常気象で、夏には猛暑日が続く、子どもたちの活動にも少なからず影響がございました。夏休みが終わり九月に入ると毎週のように大雨や台風が悩まされ、運動会も台風の影響で平日の開催を余儀なくされました。平日開催となると保護者の方々も仕事やお勤めの調整が難しくなり、少しさみしい運動会になるのではないかと懸念しておりましたが、そんな不安も一掃するほど、子どもたちの勇姿を一目でも見ようとの想いの中、地域のみなさんがたくさん応援に駆けつけて下さり、とても嬉しい光景でした。

もう四十年前の私が小学校二年生の頃ですが、当時住んでいた兵庫県丹波市では、近所に子どもたちを叱ってくれる怖いおいちゃんがいきました。夕方遅くまで遊んでいると、「もう暗くなるから早く帰れ」とよく怒られていました。ともだちの間では「あのおいちゃんに出会

うまでに早く家に帰ろう」が合言葉になっていました。また近所には自分の子どもと分け隔てせずお節介をしてくれるおばちゃんもいました。

先般の運動会で地域のみなさまが子どもたちのために時間を割いて駆け付けて下さったお姿を見た時、私自身の幼い頃のおいちゃん・おばちゃんを思い起こした次第です。私自身、地域のみなさんに大事にしてもらいながら成長し、地域の一人として育てていただきました。地域のみなさまのご支援無しでは、この地域の繁栄などありません。時代は目まぐるしく変わりますが、変わってはならないものもあります。それが何であるかを探し、大切にして、みんなで安隱に暮らして行ければと願う今日この頃です。

## 編集後記

長年に渡り年二回発行してまいりました「ネットワーク堀」を委員会総会の承認もあり、今年度は一回の発行となりました。

世の中、すっかりIT社会になり、パソコンやスマホで簡単に情報が手に入る時代となりました。紙媒体での情報発信は、もはや時代遅れなのかも知れませんが、歴史を振り返る記録として大切に味のあるものだとも思います。

もう数ヶ月で平成の元号も幕を降ろし、新しい時代を迎えます。ただ元号が変わっても我々を取り巻く福祉の環境はますます厳しい時代へ向かって行くでしょう。福祉の充実を声高に掲げる割に、行政は財源不足を理由にして、支援助・介護度の低い方々の見守りを自治会長や民生委員にまるで押しつけるかのごとく頼っているのが現状です。たぶん行き着くところ、地域福祉を推し進めて

ゆくのは、「真剣に人を思いやる気持ち」なのかも知れません。昭和もますます遠くなり、けり、ですか……。

